

策定の趣旨

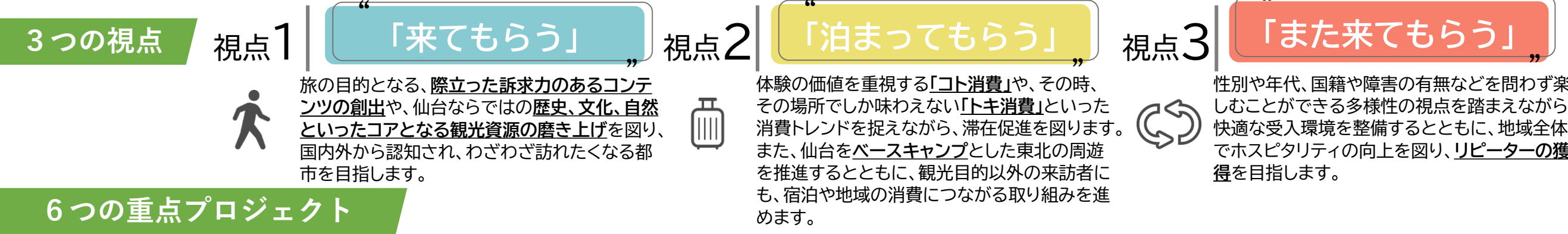
これまでの枠に捉われない「攻めの観光」を推進していくため、中長期的な視野も踏まえ、新たな財源を活用して思い切った投資をしていくことで、観光を基軸とした持続的な地域経済の発展を目指し策定します。

達成目標

2027年まで延べ宿泊者数 **680万人泊** 日本人延べ宿泊者数 610万人泊
将来に向けて **700万人泊** 外国人延べ宿泊者数 70万人泊

戦略期間

2025年度～2027年度



6つの重点プロジェクト

3つの視点を踏まえ、6つの重点プロジェクトを推進します。
「次代へつなぐ青葉山エリアの価値の深化」は、本戦略期間の3カ年で完結するものではなく、伊達政宗公没後400年となる2036年をターゲットにするなど、中長期的な視点を持って施策を展開していくため、他のプロジェクトと異なる位置付けの、重点プロジェクト「0」と定めています。

0 次代へつなぐ青葉山エリアの価値の深化

中長期的な視点のもと、受け継がれてきた歴史・文化の魅力を次の世代に継承・発展させ、青葉山エリアの価値をさらに高めることにより誘客を促進します。

- 伊達文化の魅力や景観を活かした新たな観光資源の整備・検討
- エリア内の観光資源の磨き上げと大河ドラマ誘致に向けた機運醸成
- 二次交通の強化、イベントの開催支援や広瀬川の水辺の整備に向けた検討

1 心弾むエモーショナル都市の創造

漫画・アニメやまつり、ナイトコンテンツなどの充実を図り、心がワクワクする魅力あふれる都市を目指します。

- 漫画・アニメを活用した企画の実施やコンテンツの集積
- 大規模イベントの開催・誘致やアート・エンタメなどによる賑わい創出
- まつり・イベントの魅力向上と冬季の新たな大規模ナイトイベントの創出
- ナイトイベントの長期開催、周遊につながるナイトコンテンツの造成促進

2 Sendai Urban Resortの推進

自然の恵みと触れ合う新たなコンテンツの創出やエリアの受入環境の充実を図ることで、何度でも訪れたい過ごし方を提案します。

- 西部エリアの観光スポットの整備と泉ヶ岳等におけるアドベンチャーツーリズムの推進
- 秋保地区、作並・定義地区の滞在環境整備
- 他分野と温泉を掛け合わせた新たな価値の創造
- 東部沿岸エリアの新たな体験コンテンツの創出
- 防災や減災を学ぶことができる教育旅行の誘致などの復興ツーリズムの推進
- 二次交通の充実などエリアの回遊性の向上

3 「Another JAPAN, SENDAI, TOHOKU」の発信

仙台・東北でしか出会えない魅力を体感してもらうため、プロモーションの強化や受入環境の充実を図ることで、国内外の誘客や広域観光を推進します。

- アジア地域を対象としたプロモーションの強化
- 欧米豪などの市場を新たなターゲットとした首都圏からの誘客
- VFR(友人・家族訪問)などの促進
- 東北ならではのモデルコースの造成や仙台を拠点とする東北日帰り観光の推進
- 仙台・東北各地のグルメを活用したプロモーション
- 大阪・関西万博を契機とした国内外からの誘客促進

4 +(プラス)観光の推進

ビジネスやMICE、スポーツ観戦等で来訪した方に対して観光を促し、宿泊や連泊、消費につながる取り組みを推進します。

- 青葉山エリアのMICE拠点としての機能強化
- 報奨旅行等の積極的な誘致
- 複数施設を利用して開催されるMICE助成制度の拡充とアフターMICEの周遊促進
- 閑散期の宿泊・連泊につながる取り組みの展開
- イベント等に参加する来訪者の消費拡大につながる取り組み

5 持続可能な観光地域の形成

受入環境の整備を推進するとともに、リピーターの獲得などを通じた持続可能な観光都市の実現を目指します。

- デジタルマーケティングの推進とCRMの導入
- 人材確保やDXなどの総合的支援や観光の基盤づくり強化
- サステナブルな取り組みの推進とレジリエンスの向上
- 市民が地域に誇りや愛着をもつことができる取り組みの推進
- DMOの体制強化と観光地域づくりの推進

宿泊税の活用

一般財源を活用した既存の観光振興策に加え、新たな財源として宿泊税も活用し、①旅行者を呼び込むための観光コンテンツの造成、②宿泊・連泊を促進するための誘客強化、③観光の基盤である宿泊事業者への支援の3つの視点のもと、新規・拡充事業を推進することで、さらなる交流人口の拡大を図り、地域経済の持続的な成長を図っていきます。